

農地・水・環境保全向上対策事業の活動を紹介

農村環境資源を保全し、魅力あるものにしたい

日常生活の中でなげなく目にしている農村の豊かな自然は、食糧生産の基礎であるだけでなく、私たちが自然に親しむ癒しの場ともなっています。しかしながら、全国的に集落の高齢化や混在化の進行により、農地や農業用水などの資源を守る地域のまとまりが弱まってきております。このような状況下で、農村環境を地域ぐるみで保全し、故郷の農村風景を守っていくことを目的として実施されている農地・水・環境保全向上対策事業も、今年で4年目に入りました。

本町では、8つの集落が本事業に取り組み、農道の補修や除草・用水の泥上げ等を共同で実施することにより、農村環境資源を保全するだけでなく、集落の結びつきが強まることにもつながっております。

また、本事業の一環として、農村環境資源を魅力あるものにするために、農地や農道等を利用した花の植栽等の景観形成も行っています。



立野地区：県道郡停車大須賀線沿いに、マリーゴールドをはじめとした花卉を植栽し、沿道を行き交う人の目を楽しませました。



武田地区：県道沿いの遊休農地に、武田の女性団体ダイヤモンドの皆さんを中心に、サルビア等色とりどりの花卉を植栽しました。



植房地区：幹線排水路沿いの法面に、菜の花を植栽しました。この菜の花は、県協議会の主催した花いっぱい運動の一環にもなっております。



神崎神宿地区：駅からハイキングでもお馴染みのレンゲ畑も、本事業の一環として植栽されており、町内外問わず毎年多くの人を訪れます。